



Japanese Red Cross

日本赤十字ユース委員会

Youth Committee

# ANNUAL REPORT

アニュアルレポート

# 2017

日赤熊本  
災害ボランティアサ





ABOUT US

赤十字ユース委員会は、日本の赤十字ボランティアの活性化を目的に、2016年8月に設立されました。

2009年にソルフェリーノ宣言を契機に、ユースの赤十字運動への参画促進の機運が世界中で高まりました。2013年以降の国際赤十字・赤新月連盟総会には、各社ユースの出席枠が設けられ、赤十字の最高意思決定機関での積極的な発言も見られるようになりました。また「ユースの活動参画に関する戦略（Youth Engagement Strategy、通称YES）」が総会にて承認されたことで、ますます若いボランティアへの関心が高まりました。

そうした世界的な流れを受け、日本国内でも若いボランティアの赤十字運動への参画促進が行われるようになります。これまで職員主体で企画・運営されていたイベントや事業に、ボランティアが関わった事例も見られるようになりました。また「常任理事会」「局長会議」「支部担当者会議」といった会議にて、ユースを取り巻く状況について報告し、さらにユースの声・想いを直接伝える機会も作られるようになりました。

日本国内のユースボランティアに関心が高まると同時に、彼らを取り巻く環境の課題も明らかになりました。また世界のユースとのパイプの弱さも課題として捉えられるようになります。そうした国内の課題やボランティア間のニーズに対応したチームを設立する必要性が高まったことが「赤十字ユース委員会」の立ち上げの始まりでした。現在は10人のボランティアと3人の職員が協働し、「東アジアユースネットワーク」「協議会」「研修」をキーワードに活動を行っています。

history 背景

- / 2009年のソルフェリーノ宣言
- / 連盟総会へのユースの参加 (2013年、2015年、2017年)
- / 「ユースの活動参画に関する戦略（Youth Engagement Strategy）」の承認（2013年）
- / 「ユースポリシー」の再策定（2017年）

世界中でユースへの赤十字運動への参画を促進する動きが加速。日本国内でもその動きを受け、若いボランティアの可能性に注目と期待が高まりました。国内とりわけ赤十字ボランティア内の課題やニーズに対して活動や提言を行う「赤十字ユース委員会」の始まりはここからでした。

赤十字ユース委員会は、活動の指針として

「ユースの活動参画に関する戦略

Youth Engagement Strategy (Y.E.S.)」

を取り上げ、その実現を目指している。

2013年に国際赤十字・赤新月連盟総会にて承認された本戦略には3つの柱（**1** ボランティアとしてのユース、**2** リーダーとしてのユース、**3** 受益者としてのユース）にそれぞれ項目が並んでいます。それらを実現することで、ユースが活性化されるとされており、本戦略は世界中で方針づくりの礎として位置付けられはじめています。

guideline 指針

mission



日本赤十字ユースボランティアの活性化

の実現のため、私たちは世界のユースと日本のユースのパイプ役を務め、日赤ユースの課題に対して提言・活動行います。

structure 組織体制

主担当制とし、活動を展開する3分野（東アジアユースネットワーク関連、協議会関連、研修関連）それぞれにチームを設置。また、委員会の運営を担当するチームを加え、ユース委員会は計4つのチームによって構成されています。主担当となった分野での活動を、高いリーダーシップとメンバーシップを持ち展開することはもちろん、他分野の活動についても全員で取り組んでいます。活動領域については、活動評価を定期的に行い、必要に応じて見直してを行う予定です。

ボランティアと職員の協働により、「改善」だけでなく「良いイノベーション」を起こしていく

その実現のために、会議や活動はボランティア・職員が協働し行っています。両者が「想い」「意見」「アイデア」を持ち、分かち合い、良い変化を起こすことを日頃から意識しています。また活動の成果として「課題が解決される」「改善される」に留まらず、ボランティア活性化に向けた前向きな変革を目指しています。

方針 policy





# 10

## Youth Volunteers

赤十字ユース委員会は、  
全国から集まった10人のユースボランティアと、  
3人の職員で活動してしています。



6:4

2018年2月時点で、学生は6名、社会人は4名。



委員会のメンバーは全国から集まっているため、通常のミーティング（原則月一回行っている）はスカイプやFacebookを使用した電話会議を行っています。はじめは慣れないながらも積極的に使用することで、コミュニケーションを可能になりました。

### ボランティア

## VOLUNTEERS

※所属については、2018年2月時点のものです



研修 関連

**Okada Yuki**

岡田 悠希

玉手山学生赤十字奉仕団

2015年には東日本大震災被災地訪問活動に参加。また支部指導講習を受講。そうした経験を生かし、研修連盟が推進する研修ツール「YABC」をはじめとした新しい研修ツールの導入にも意欲的に活動をしている。



運営 関連

**Tanaka Yumino**

田中 友美乃

神奈川県国際赤十字奉仕団

奉仕団やNHK「海外たすけあい」ボランティアでの経験を生かし、グラフィックやソーシャルメディア、ウェブツールの活用を推進。委員会内外の調整を担当。2013年シドニー・2015年ジュネーブでの連盟総会・関連会議に出席。



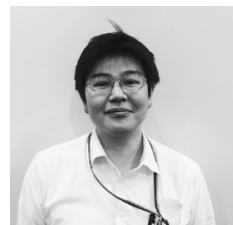
東アジアユースネットワーク関連

**Kanamori Saki**

金森 早紀

上智大学（パートナーシップ協定）

香港ユースとの交流を機に始動した「スマイルチルドレンプロジェクト（特定非営利活動法人キッズドアと協働し、子どもの貧困問題に対する活動）」のメンバーの一人。2016年アジア関係 級災害リスク軽減会議に出席。



協議会 関連

**Doi Yoshinobu**

土井 慶信

大阪府青年赤十字奉仕団

10年以上のボランティア経験の中で培ったスキルや知見を生かし、大阪府内では顧問として、ユース委員会では協議会関連の担当として活動。現場から組織全体を広く捉え、課題の整理や活動、他メンバーのフォローも行っている。



東アジアユースネットワーク関連

**Kawakami Sara**

川上 紗良

神奈川県青年赤十字奉仕団

平成29年度ユース委員会委員長。神奈川県内では、JRCメンバーとの活動や防災をテーマにした活動など幅広い分野で赤十字に携わる。仙台での国連防災世界会議、2017年トルコでの連盟総会、ユース・フォーラムに参加。



研修 関連

**Hashimoto Yuta**

橋本 裕太

福島県青年赤十字奉仕団

現在国内で普及を目指す研修「YABC」の養成研修を受講。同世代で学び合える、さらにスキル向上やモチベーション向上につながる研修の場の創出のため、研修状況の調査や自身で実践し事例作りを行っている。



研修 関連

**Kumagai Towa**

熊谷 永遠

宮城県青年赤十字奉仕団

青年赤十字奉仕団だけでなく、地域奉仕団での活動経験もある。活発な赤十字活動につながる要素を生み出せる「研修」をテーマに、1ボランティアとしても県内の研修、リーダー研修やピア研修、また指導講師研修を受講。



協議会 関連

**Hiratsuka Tomoaki**

平塚 友彬

熊本県青年赤十字奉仕団

熊本地震発生後、赤十字マークを纏い被災地での活動を行なった。VC（ボランティアセンター）の設置やその後の防災・減災に関する活動は、他地域の仲間にも多くの気づきを与えている。委員会では協議会関連の担当を務めている。



協議会 関連

**Kobayashi Noriko**

小林 紀子

栃木県青年赤十字奉仕団

自身のこれまでのボランティア活動経験を生かし、ブロック協議会や全国協議会といった「ボランティアの意思決定プロセス」の課題解決に携わる。「協議会」を切口に、ボランティア間、ボランティアと社との連携強化につとめている。



運営 関連

**Mori Daiki**

森 大輝

熊本県青年赤十字奉仕団

日赤ユースの課題に対して何かしたいという思いを持ってユース委員会のメンバーへ。委員会内のマネジメントを担当し、ミーティングの開催やウェブツールの利用促進、またチームを跨いだ資料作成支援をつとめている。

### 職員

## STAFFS



**Iwamoto Ayumi**

岩本 亜有美

事務局 パートナーシップ推進部  
ボランティア活動推進室  
青少年・ボランティア課 係長



**Yahiro Emi**

八尋 絵美

事務局 パートナーシップ推進部  
ボランティア活動推進室  
青少年・ボランティア課 主事



**Sato Yusuke**

佐藤 裕輔

事務局 パートナーシップ推進部  
ボランティア活動推進室  
青少年・ボランティア課 主事





TEAM  
A

# EAST ASIA YOUTH NETWORK

## 東アジアユースネットワーク関連

MISSION  
活動目的

日本赤十字ユースの  
東アジアユースネットワークへの所属意識・当事者意識を高める

GOALS  
活動目標

1. 東アジアユースネットワーク内で実施されるキャンペーンへの参加率向上
2. 日本赤十字ユースボランティアの、「東アジアユースネットワーク」および「アクション計画 (Plan of Action)」の認知度100%
3. 日本赤十字ユースボランティアに、国外ユースの動向を身近に感じてもらう

ACTIVITIES  
活動内容

1. EAYN Plan of Action (PoA) (東アジアユースネットワーク会議2016にて作成された東アジアの活動計画) の読み込みと活動化
2. 東アジアユースネットワーク運営委員とのコミュニケーション
3. 日本赤十字ユースからの情報収集および情報提供

MEMBERS  
主担当  
メンバー



金森 早紀



川上 紗良

### 1 活動実績

#### 東アジアユースネットワーク会議2016への出席

開催日 2016年6月28日～30日  
開催国 マカオ  
参加国 中国紅十字会・香港支部・マカオ支部・韓国赤十字社  
・モンゴル赤十字社・日本赤十字社

成果 EAYN Plan of Action (PoA) 2016-2017  
(東アジアユースネットワーク会議2016にて作成された東アジアの活動計画) の策定

#### EAYN Plan of Action (PoA) 2016-2017に基づく活動

・ E-news-letter(東アジア内で作られているオンライン情報誌) ユースページの作成  
・ キャンペーン実施  
外部への広報として、個人のエピソードを募集したキャンペーンや平和な世界への促進を目指したフォトキャンペーン #Humanity in my eyes

成果

#### 認知度アンケートの実施

実施期間：2017/07/18-08/05  
対象者：日本ユースボランティア  
回答回収方法：facebook 及び各支部を通してURLを共有し、インターネット上で回答を集めた  
目的：日赤のユースがEAYNについてどれほど知っているのか、日赤ユースが国外とのネットワークを通じて知りたいことや期待することについて  
質問事項：回答者の所属等、EAYNを知っているか・その内容、キャンペーンに参加経験の有無、EAYNのfacebookページを知っているか・他国から情報を知りたいか・EAYNへの期待や参加への意思ほか

- ・ 結果  
認知度アンケート 回答者 472人  
・ EAYNを知らない 73%  
・ キャンペーンを知らなかった 447人  
・ Facebookを使っていない 57%  
・ 国外ユースのことで知りたいことは事例共有や活動内容

知らなかった、という意見や一部の団員にしか情報が知れ渡っていない、といった声があり、従来の共有方法では情報がしっかりと行きわたっていないことがわかった。また、「海外のこと＝言語の壁が厚い」と感じるメンバーがいる。そのため海外からの情報を伝える際に工夫が必要(和訳するだけでなく、日赤ユースにわかりやすく読んでもらえる形になど)。一方で、日赤ユースが求めている事例の共有はEAYNの目的そのものなので各ボランティアがEAYNを活用できるよう、これからも活動していく。

### 2 課題

#### 優良事例の収集

EAYNの活動目標の一つに、優良事例を共有することとあるが、日本国内の優良事例も集められておらず、また、海外の事例も共有する体制が整えられていない。

#### 東アジアユースネットワーク(EAYN) アジア太平洋州ユースネットワーク(APYN)の認知度が低い

赤十字が国際的な組織であり、日本もユースネットワーク(東アジアやアジア大洋州など)に所属しているが、実情としてまだその関わりが国内の活動に生かされていない。海外からの情報ややり方から学び、ともに活動することができることの重要性がまだ知られていない。またその活動にボランティアそれぞれを巻き込むことがまだできていない状態である。

#### Facebookをやっていないメンバーへの情報提供

今はFacebookをやっていないと情報を伝わってこない現状

### 3 今後のアクション

海外での取り決めや事例を日赤ユースにも反映させるために、身近なネットワークであるEAYNを知ってもらおう

#### 具体的なアクション

資料の翻訳と、みんながアクセスしやすいように噛み砕いて共有する  
Plan of Actionの実現  
事例共有

#### 具体的なアクション

ユースポリシー2017の情報共有と日赤独自のユースポリシー(連盟のものは国際的で抽象度が高い。その他め、その国の状況を考慮し、具体的に考えた指針づくりが必要)の作成

世界のユースの動向を瞬時に日赤ユースに反映させ、国際的なユース活性化活動に乗り、活動できる体制を整える

ネットワークがあることで、自分たちでは経験していない事例に出会い、インスピレーションをえることができる。海外の事例にふれ、参考にし、自分たちの活動に生かしていく。

ユースが生き生きと活動できる環境づくりの重要な要素を獲得できるから。指針や鍵となる。活動できる指針であり、社とボランティアの関係構築する際かな目となる。



**MISSION**  
活動目的

日本赤十字ユースボランティアの意思決定の協議会システムを機能化させる

**GOALS**  
活動目標

1. 昨年度(H28年度)の全国協議会委員と振り返りをし、今後の在り方について意見を集約する
2. 全協後、協議会内容が各地域の活動に反映されるよう、分かりやすい資料の作成と訴求活動を行う
3. 今後の全国協議会のあり方について協議する

**ACTIVITIES**  
活動内容

1. 全国協議会委員との連携
2. 全国協議会でのユース委員会の役割の明確化
3. 次年度のブロック協議会・全国協議会準備

**MEMBERS**  
主担当  
メンバー



**TEAM B**

**YOUTH' DECISION MAKING STRUCTURE and FUNCTION**  
協議会関連



～H28年度

H29年度

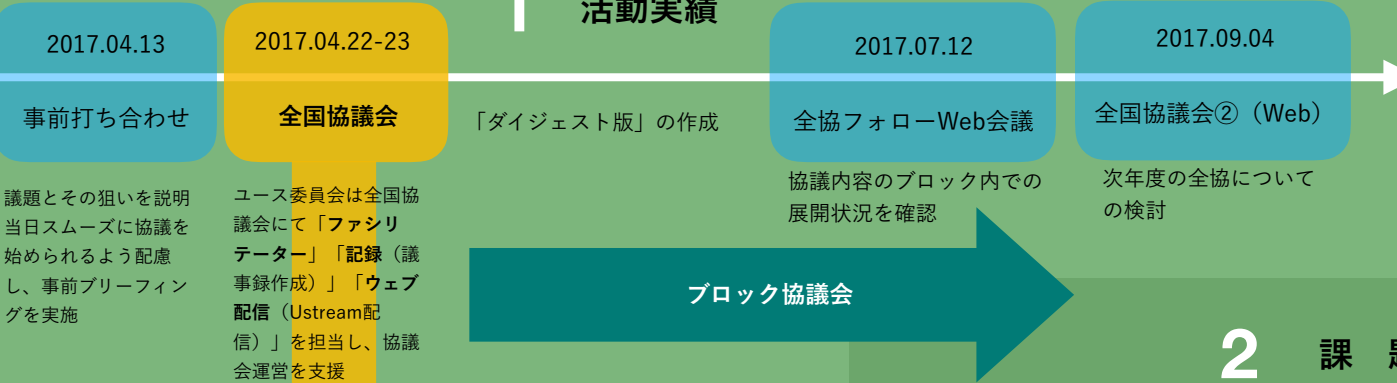


全国協議会・ブロック協議会の開催時期について変更がありました

これまでは、「ブロック協議会→全国協議会」の順に開催していた。これにより各都道府県の情報や意見をブロック協議会にて集約し全国協議会に臨める良さが評価されていた。一方で、全国協議会での議論や決定をブロックや各都道府県におろすことが困難であるという課題があった。そこで平成29年度は順序を「全国協議会→ブロック協議会」と思い切った変更を行った。ウェブ会議ツールを導入し、委員へのフォローや情報・意見集約の促進を行うといった新しい取り組みも生まれた。

**1 活動実績**

**3 今後のアクション**



**活動の活性化につながる全国協議会の運営**  
ユース委員は運営の支援・助言者として関わる  
議事進行には全協委員の積極的な参加を促す  
※全協委員に任せるべきところとユース委員がサポートすべきところの見極めが重要。  
※当日の展開を事前に想定し、どの段階でフォローを入れるか検討しておく必要あり。

**2 課題**

- 協議 1 青年赤十字奉仕団の連携強化について
- 1: ブロックで連携した働きかけを行う
  - 2: 支部と連携した活動を展開する
  - 3: 都道府県内で実施する研修の機会を活用する
- 協議 2 青年赤十字奉仕団員の募集方法について
- 1: JRC メンバーへアプローチをする
  - 2: 同年代へのアプローチを強化する
- 協議 3 青年赤十字奉仕団の定着方法について
- 1: 今いるメンバーのモチベーションを向上・維持する
  - 2: 環境が変わるタイミング (例: 大学を卒業し、社会人になる時) があっても、赤十字のボランティアを継続するような場にする



繁閑の差への対応

大きなイベント (協議会) が終わると比較的余裕ができる。その余裕で何が出来るか検討が不十分だった。

全協委員との関係性

会の進行や助言など経験の浅い学生にとっては支援を得られることが概ね高評価なようで、「次回もお願いしたい」や「ブロックでも司会をしてほしい」など頼りにしてくれた点は嬉しい反面、「これからは役割分担が楽になる」と思われると全協委員としての自主性や成長を妨げてしまう懸念も浮上

ブロックでの立ち位置の整理

期待の声も聞かれる一方、「なんのための委員なのか」などの声もあり各ブロックでの認識に温度差。

※円滑な協議運営のため司会や書記などの役割を担当することとした。進行自体は狙い通りだったものの、本来全協委員に期待することと線引きが不明確だったため、次回開催までに参加するユース委員の間で認識をそろえておくようにする。

再度、具体的取り組み事例も交えて全国的な周知の必要あり。



MISSION  
活動目的

ボランティアが、自身の活動に活かせる研修環境を作り、活動の活性化につなげる

GOALS  
活動目標

1. 「ボランティア活動推進室基本戦略」の研修に関する項目を実現させる
2. ボランティア活動に活かせる研修制度・研修内容を構築する

ACTIVITIES  
活動内容

1. 現状調査アンケートの実施、および分析
2. Y.A.B.C.研修、リーダー研修、県支部・奉仕団主催研修への参加
3. 「研修検討会」の設立

1 活動実績

リーダー研修にサポーターとして携わった

前年度との大きな変更点は、三種奉仕団（青春・特殊・地域）合同で開催した点だった。理由として、震災時などの緊急時に各府県下奉仕団が連携した動きをできるように、各々のリーダーが集まりスキル獲得とネットワーク形成を目的としたためだった。

その企画・運営は職員とボランティアが共同で行われ、ユース委員会からもサポーターを派遣した。ユース枠の他のボランティアと別途協議の時間をもち、リーダー研修日程案を作成し提出した。

現状調査アンケートを実施した

2017年度YABC研修参加者へ事後アンケートを実施した。

研修の視察を行った

奉仕団主導で開催される研修を視察し、優良事例収集とその成功要因分析を行なった。参加した研修は、

- ①大阪の土井研 [2017.12.9~10]  
(正式名称は「大阪府青年赤十字奉仕団合宿勉強会(防災キャンプ)」)
- ②第3回防災ピア(福島県) [2018.2.24]

参加者でありオブザーバーとして研修に自ら参加したことで、現状について知ることができた。



2 補足説明

Y.A.B.C.

連盟が推し進めている『Youth as Agents of Behavioural Change』を略したものであり、ユースが『自らを変え、周囲を変えていく』ことを目的とした研修ツール

ボランティア活動推進室基本戦略

日本赤十字社の社内資料のひとつで、ボランティアの活動推進に関する戦略が記載されている。ユース委員会の研修チームでは、本戦略の研修に関する項目を引用し、活動指針の策定を行った。

研修検討会

2018年度設立予定の「研修検討会」は、現在の研修制度とその内容を見直し、さらにボランティア養成研修マニュアルの改訂を行う。ユース委員会は研修検討会との連携をしていく予定。

リーダー研修2017

2017年度の全国リーダー研修の最大のポイントは、3種（青春・特殊奉・地域奉）合同開催となった点。災害マネジメントサイクルを念頭に、災害発生時・前後の活動について考えた。

3 今後のアクション

「ボランティアの意見」「支部職員で研修を開催できること」「研修を受けることでおこる変化から見える重要性」「研修を行うことで、どのような効果があるのか」を訴求する。また、研修開催のための派遣に係る予算の確保や、各団体とのネットワーク作りを目指す。

研修の制度・内容（コンセプトやプログラム）を評価し、変更の必要な部分について検討を行う。また研修マニュアルを再編集し、現状にあった研修を作る。

研修検討委員会を通じての社(支部)との連携強化

重点テーマ

研修の重要性認知と活性化

ボランティア自身から研修において、何がしたいかを整理する。その結果を踏まえ、課題に対応した活動をし、各団体の活動活性化につなげる。

全国の優良事例を共有し、各奉仕団の改善につなげる契機を創出する。また参加者のコメントやエピソードを共有することで、研修を受けることの必要性をユースボランティアに発信する。研修内容の改善だけでなく、ボランティアのモチベーション向上につながる活動を行う。

Y.A.B.C.の簡易版を作り、実施事例を作る。

調査結果を踏まえた研修の見直しと構築

全国へ優良事例の共有